九州地区高校野球県大会

長崎商 19季ぶりV

第144回九州地区高校野球県大会最終日は7日、佐世保市総合グラウンド野球場で決勝が行われ、長崎商が九州文化学園に13―5で快勝して、2009年秋以来、19季ぶり7度目の優勝を飾った。長崎商は20～25日に鹿児島市で開かれる九州大会に出場する。

長崎商は三回までに3点を先行されたが、四回1死満塁から、谷口、井上の連続適時打、桝屋のスクイズで一挙4点を奪って逆転。五、六回も計10安打で4点ずつを加えて突き放した。先発桝屋は再登板を含めて8回⅓を自責点2。低めに集めて粘投した。

九州文化学園は初回に柏木の右前適時打などで2点を奪い、三回に高橋の左前適時打で1点を追加。逆転された後も毎回安打を放ったが、大量失点が響いて流れを引き戻せなかった。（石田慶介）

▽決勝

九州文化学園	201 000 020	5
長崎商	000 444 10×	13

▽二塁打 中野（九）青山、相川、谷口（長）
▽試合時間 2時間32分

【評】長崎商が先発全員の16安打を放って快勝した。中盤にビッグイニングを続けて、序盤の劣勢を一気にひっくり返した。

長崎商は四～六回で計13安打12得点。いずれの回も犠打で好機を広げて連打を浴びせた。16安打中13本が単打で長打は二塁打3本。下位打線も含めてスイングが鋭く、7人が打点をマークした。投手陣は被安打15、バックも3失策と精彩を欠いたが、大量点に支えられて余裕があった。

九州文化学園は残塁12の拙攻。投手は4人が登板したが、長崎商打線を止められなかった。

長崎商13－5九州文化

【九州文化】		打	安	点
⑤	石田	4	1	0
④	中野	4	3	2
⑥	柏木	5	2	1
⑨1	後藤祐	5	1	0
②	後藤遼	3	1	0
⑧	高橋	4	2	1
H	川本	1	0	0
⑦9	蒲地	3	1	0
H	木崎	1	1	0
R9	小川	1	0	0
③1	羽鶴	3	2	0
7	城山	2	1	0
①	山科	2	0	0
1	林	1	0	0
3	江上	1	0	0
	計	40	15	4

【長崎商】		打	安	点
⑨	石川	4	2	0
⑥	岸本	4	2	1
③	相川	4	2	1
⑤15	藤本	1	1	1
⑦	貴山	2	2	2
②	谷口	5	3	5
⑧	井上	5	2	2
①51	桝屋	3	1	1
④	金田	3	1	0
	計	31	16	13

	振	球	犠	盗	失	併	残
九	8	3	1	1	0	0	12
長	2	5	7	1	3	1	6

投手	回	打	安	振	球	責
山科	3⅓	16	4	1	3	4
林	2⅓	14	7	1	0	6
羽鶴	⅔	2	1	0	1	2
後藤祐	2⅓	11	4	0	1	1
桝屋	7	33	10	6	3	2
藤本	⅔	5	3	1	0	2
桝屋	1⅓	6	2	1	0	0

【決勝、九州文化学園―長崎商】4回裏長崎商1死二、三塁、桝屋が勝ち越しのスクイズを決める＝佐世保市総合グラウンド野球場（山下哲嗣撮影）

ハイライト

冬越えてたくましく

ユニホームの上からも分かる筋肉の厚み、伝統の堅実な犠打、そこから畳み掛ける勝負強い打撃―。冬を越えてチームは一回りたくましくなっていた。両校計31安打の乱打戦を制して、準優勝だった昨秋から2季連続で九州切符を手にした長崎商。西口監督は守備の課題を挙げながらも「夏に向けていい経験を積めた」と手応えを口にした。

昨年10月の九州大会。勝てば選抜出場有力となる準々決勝で、明豊（大分）に1―10のコールドで敗れた。エース桝屋が「自分たちの野球ができなかったし、力もなかった」と振り返ったように、一人一人がチームの現在地を思い知らされた。

その悔しさを糧に、オフシーズンはそれぞれが心身両面で「自信を持てるだけのきついこと」（桝屋）に励んだ。迎えた春。海星、創成館、長崎日大の強豪私立校を倒して激戦区から頂点へ駆け上がった。この日も投手陣は15安打を許したが、打線は鮮やかな集中打で16安打13得点。桝屋は「テーマを持って投げられた」と前向きに捉え、3打席連続適時打で5打点を挙げた谷口は「冬に下半身をいじめ抜き、勝てるだけの自信はつけてきた」と充実感を漂わせた。

例年以上に混戦とされる今季の県内だが、これで本命の夏の主役になれる力は示した。次は全国4強の明豊など選抜出場校も集まる九州大会。半年前の雪辱の場であり、県勢で唯一挑戦できる貴重な経験の舞台となる。

桝屋は「夏に勝たないと意味がない。明豊にもリベンジして、ベストな状態で夏につなげる大会にする」と意気込んだ。

（石田慶介）